

学位論文審査の結果の要旨

令和 4 年 5 月 19 日

審査委員	主 査	南野哲男		
	副主査	舛形尚		
	副主査	平野勝也		
願 出 者	専攻	医学	部門	(平成27年度以前入学者のみ 記入)
	学籍 番号	18D734	氏名	山鳥 佑輔
論 文 題 目	The Association between Preoperative Blood Pressure Elevations and Postoperative Adverse Outcomes after Non-cardiac Surgery: A Single-center Retrospective Observational Study			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格 (該当するものを○で囲むこと。)		

〔 要 旨 〕

【背景】精神的に緊張している手術前は、平時に比べて血圧が高い。しかし、術前の血圧上昇の程度と術後有害事象の関係は必ずしも明らかではない。

【目的】本研究の目的は、非心臓手術患者における術前の血圧上昇の程度が術後有害事象と関連するかどうか、また、それに臨床的な有用性があるかどうかを検討することである。

【方法】2011年1月から2019年6月の間に香川大学医学部附属病院で全身麻酔下の非心臓予定入院手術を受けた成人患者の診療録を後ろ向きに調査した。手術前日血圧と麻酔導入前血圧の差をΔ収縮期血圧(ΔSBP)およびΔ拡張期血圧(ΔDBP)と定義した。評価項目を術後30日死亡、退院後30日以内の予定外再入院、標準的入院期間からの逸脱(OSLOS)とした。OSLOSは日本における平均+2SD日数よりも長い入院と定義し、診断群分類(DPC)データを用いて算出した。単変量解析(t検定)においてΔSBPまたはΔDBPと有意な関連がある評価項目について、多変量ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】単変量解析において、評価項目のうちOSLOSのみがΔSBPおよびΔDBPと関連していた。多変量解析において、ΔDBPはOSLOSと関連があったが(P<0.05)、ΔSBPは有意な関連がなかった(P=0.10)。ΔDBPの最大四分位の調整オッズ比(95%CI)は1.31(1.02-1.69)であった。

【結論】成人の非心臓予定入院手術において、ΔDBPはOSLOSと関連していた。しかし、臨床的に有用なカットオフ値を見出すことは難しかった。

本研究に関する学位論文審査委員会は令和4年5月18日に行われた。

本研究は、術前の拡張期血圧の上昇量が標準的入院期間からの逸脱と関連するが、臨床的に有用なカットオフ値を見出すことは難しく、術前の血圧上昇量の大小により術後有害事象の予測をすることは困難であること示したもので、結果に対する十分な考察もなされている。本研究で得られた成果は、術前の血圧上昇量という他に報告のない指標で予後予測が可能であるかを評価した初めての報告であり、学術的価値が高い。委員会の合議により、本論文は博士（医学）の学位論文に十分値するものと判定した。

審査においては

1. Δ BPと術中出血量の関連性
2. 年齢によるグループ分けを行ったうえでの二次解析
3. Δ BPに影響を与える因子についての検討
4. OSLOSの直接的な原因についての考察
5. 体位による血圧変化以外の血圧に影響を与える因子
6. 周術期の血圧以外のパラメーター（心拍数）の変化
7. 過去の研究における報告と、今回得られたデータの比較
8. Δ DBPと Δ SBPによる予後予測に差が生じている理由
9. 本報告の臨床的意義
10. Δ BPを小さくする介入が予後（OSLOS）に対し影響を与える可能性があるかについての考察

などについて多数の質問が行われた。申請者はいずれにも明確に応答し、医学博士の学位授与に値する十分な見識と能力を有することが認められた。

掲 載 誌 名	Acta Medica Okayama	第	卷,	第	号
(公表予定) 掲 載 年 月	2022年 3月 掲載受理	出版社(等)名	岡山大学		

(備考) 要旨は、1,500字以内にまとめてください。